

しろがね特別支援学校のセンター的機能

専門アドバイザーの仕事の中から小学校の相談事例を紹介します

【ひらがなの読み書きが難しく 全体指示の理解が難しい 小学校1年生】

1年生のAさんは、自分の名前（6文字）と「ん」のみ書くことができますが、その7文字も一文字ずつだと読むことが難しいです。全体指示のみでは理解が難しく、指示の後に7割程度は個別に言葉かけが必要でした。モニターに教科書が映しだされたり、教師が黒板を指さしながら「ここ見て」と言ったりすると、そちらをよく見ていました。話を聞くことが中心の時間は、爪や指の皮を気にしたり、定規を出して遊んだりしていました。字形は整っていますが手首をひねったように鉛筆を持っていました。お腹に力が入っていない座り方で、常にかかとは浮いてつま先のみ床についていました。日々の宿題や返却されるテストなどを見て、保護者が非常に心配しています。

提案

「保護者との話し合い／相談先」

臨床心理士や言語聴覚士などがいる市の発達支援センターや、小児神経科や心療内科などの医療機関を、相談先として保護者に紹介してみましょう。

読み書きや発達面の検査についても、センターや医療機関で受けられる場合もあります。Aさんのより良い支援のために、保護者と学校とで話し合いの場がもてるとよいでしょう。



「見て分かるように」

音読の際、読んでいる部分の色が変わっていくアプリを活用したり、「○ページを開いて」という指示とともにモニターに映したり、教師が持っている教科書を「このページ、同じ」などと見せたりして、視覚情報も入れてみましょう。



「姿勢」

足のうらが床につくようにしましょう。かかとの位置に小さな印、シールをはったり、書く学習活動になる際に「グー ピタ ピン！」（校内での良い姿勢の合言葉とイラスト）を確認したりしてみましょう。



日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。
障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。お待ちしております。



群馬県立しろがね特別支援学校
担 当：専門アドバイザー 板谷 みのり
電 話：027-268-6111
FAX：027-268-6113
メール：shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp